

令和 7 年度に係る年度評価及び第 5 期中長期目標期間に係る実績評価書（素案）に対する意見等

赤字はご意見、青字はご指摘・ご質問

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
第 3．研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項		
1．環境研究に関する業務		
1.(1)重点的に取り組むべき課題への統合的な研究の推進 年度評価書(案) 掲載箇所： 7ページ 期間評価書(案) 掲載箇所： 7ページ	【年度・期間】全体として多くの優れた研究成果がでており、高く評価する。	1
	【年度・期間】「持続可能地域共創研究プログラム」のみが年度、また期間においても 3 点台のやや低い外部評価になっているのが気になる。理由を検討し、改善をはかるべきでは、と思われる。	2
	【年度】大気中メタン濃度の急増の原因がアジア低緯度域の湿地、水田等からの微生物活動が主原因と示唆する研究結果や、提案した大規模オーバーシュートモデルがIPCC第7次評価報告書に採択されるなど、国際的な規模で大きな成果を上げている。また、自治体及び圏域スケールでのカーボンニュートラル支援では、具体的なビジネスモデルを提案し、産業界を含めたコンソーシアムを立ち上げて社会実装を進めるなど、基礎研究のみにとどまらない成果も上げている。これらの実績を高く評価する。	3
	【期間】日本における環境研究をリードする機関として、国内外にその存在感を十分に示す成果を上げており、高く評価できる。	4
	【年度・期間】一部の成果はSに該当するものも含まれると考えるが、総合的な評価としてA評価を支持する。	5
	【年度】脱炭素アクションに対するユーザーの選択確率に関する研究のような取り組みは今後も重要である。設備投資を必要とする選択が低いことは想定内の結果と考えるが、各選択肢を選択した際の経済的負担と効果、脱炭素へのインパクトを組み合わせた最適解のような分析はできないであろうか。（個人だけでなく企業も対象に含め）	6
	【期間】いずれのプログラムにおいても国内外における環境政策等に貢献する重要な成果を挙げている。	7
	【年度】P23:「若手研究者の話題提供・自由討論」とあるが、若手研究者の範囲や参加者の属性・人数等がわかるとよい。	8
	【年度】GHG推計のようにグローバルにインパクトのある研究成果と共に、多様な種類があるPFASについてPFBAの影響を検証するなど、各プログラムについて着実な研究成果が認められる。	9

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
	【期間】全国で多発する災害や人口減少を踏まえると、災害環境研究プログラムについては、持続可能地域共創プログラムとの連携強化（インフラ維持等）を含め転換期に来ており、再編された次期計画において、これまでの知見と課題が着実に活かされることを期待する。	10
	【期間】気候変動・大気質研究プログラムにおいて「逆解析システムNISMON-CO2の高解像度化とCO2フラックスの再現性評価、降水量将来予測の不確実性低減、ブラックカーボン排出量の再評価など、パリ協定の目標達成に向けた取り組みをはじめとする政策貢献に資する成果を出すことができた。」とあるが、その成果が本業務においてどのように資したのか報告書からは読み取れなかった。	11
1.(2)環境研究の各分野における科学的知見の創出等の推進	【年度・期間】幅広い研究分野の基礎的な調査研究を着実に進め、先導的な研究、政策対応研究、基盤的知見の蓄積のいずれの分野においても高い水準の成果を挙げており評価できる。年度および期間評価としてA評価を支持する。	12
年度評価書(案) 掲載箇所：9ページ	【年度・期間】基礎研究から政策対応研究、知的研究基盤整備まで着実な研究成果をあげている。特に知的研究基盤整備は、国立環境研究所が担う役割として重要であり、国内外への貢献も大きい。	13
期間評価書(案) 掲載箇所：13ページ	【期間】「（一人あたり）誌上発表（査読あり）」件数の第5期平均は1.32で第4期平均の1.42を下回っている。また「査読あり」が国際誌で世界的な貢献をしているのか和文誌なのか把握できないため、科学的知見が国内でのシェアに留まるのか世界的に貢献しているのか判断できなかった。 「査読なし」の誌上発表も第5期の方が少なく、かつ0.5を下回っていることから、一般向けの解説などがほとんど投稿されていないと推察される。一般への知見の周知という点では、「査読なし」の和文での発表も積極的に評価し、推奨してはどうかと思った。	14
	【年度】56頁以降に記載されている水上ドローンによる水草モニタリングでは、光学的手法を用いているように見える。研究対象である野尻湖は透明度が高いので光学的手法でもモニタリングできるが、穴道湖など、濁度が高い湖沼ではこの方法は適用できない。筆者らはこの点を考慮し、10年以上前に音響を使った水草藻場調査手法を開発した。この時の共同研究者はAIによるデータ処理や将来予測をかねてより推進している。なぜこのような研究を現時点で始めたのか、記載されている内容からは理解できなかった。	15
	【期間評価】P35-36：唐突感があるため、当該期間でどのような動きがあったかをわかるように整理いただいた方がわかりやすい。	16
	【期間】個別の課題に加え、生態系因果ネットワーク推定手法の開発のような統合的・横断的な観点で要請されている新たな課題にも挑戦しており、国環研の総合力を活かした発展が期待される。	17
	【年度】69頁に「高水温と貧酸素の現状とワカサギへの影響」と題した図が提示されており、「2022年7月5日付近で生育可能水深幅がゼロになっている」と解説している。霞ヶ浦では他の湖沼と事なり、ワカサギ漁は7月下旬に解禁される（他の湖沼では秋から冬）。2022年も7月21日にトロール漁が解禁されており、漁獲量は激減していたものの「ゼロ」ではなかった。これは高水温以外にもワカサギ生残を左右する因子があることを示している。実際、霞ヶ浦のワカサギ漁獲量減少については高水温以外の原因も提案されており、関係者へのデータの提示が断定的になっていないか気になった。	18

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
1.(3)国の計画に基づき中長期目標期間を超えて実施する事業の着実な推進 年度評価書(案) 掲載箇所： 13ページ 期間評価書(案) 掲載箇所： 19ページ	【年度・期間】全体として、着実に事業が推進されている。	19
	【年度・期間】エコチル調査に関する事業での追跡率が落ちている点について、原因を解明し、今後に活かす必要性を感じる。	20
	【年度・期間】複数のGOSAT衛星システムの能力を最大限に生かし、信頼性が高く注目度も大きな研究を進めていることを高く評価する。また、参加率の低下などいくつかの課題を抱えつつもそれを克服する努力を重ねながら世界に類を見ないエコチル調査を継続的に進めている点も高く評価する。年度および期間評価としてA評価を支持する。	21
	【年度・期間】いずれのプロジェクトも優れた研究成果をあげている。特に衛星観測に関する事業においては、国際的にも関心が高く、今後の地球規模の環境課題の観測においてさらなる貢献が期待される。	22
	【年度・期間】エコチル事業も貴重な大規模データを有しているので、国際共同研究等にもさらに積極的に活かして欲しい。	23
	【年度・期間】エコチル調査の長期継続とその分析結果がPFASの影響評価を含め、人の安全に資する多様な成果を生み出しており、日本のユニークな研究成果として高く評価できる。	24
1.(4)国内外機関との連携及び政策貢献を含む社会実装の推進 年度評価書(案) 掲載箇所： 15ページ 期間評価書(案) 掲載箇所： 22ページ	【年度・期間】関連する研究機関等との連携を引き続き精力的に継続するとともに、環境研究の中核的機関として国際的なプレゼンスも高めており、評価できる。年度および期間評価としてA評価を支持する。	25
	【年度】災害・事故時の環境リスク管理に資する人材育成の取り組み、大変すばらしいです。地域によって災害リスクや起こり得る災害の種類も異なりますので、どのようなシナリオにするか工夫が必要と考えます。（どのように検討されているのでしょうか）	26
	【年度】地方環境研究所等とも密に連携し、ニーズに沿った研修などを着実にっており、すそ野の広い人材育成に貢献していること、評価できます。	27
	【期間】国内外の政策に大きく貢献する成果をあげている。	28
	【期間】地方公共団体との共同研究については、「地方環境研究所」が総数でどれくらいあるかの母数が不明であり、また、特定の地環研に偏っていないかが把握できないため、今中長期計画から新設された「連携推進部が中心となって、産学連携コーディネーターを配置し共同研究等のコーディネートを行ったこと」の成果が反映されているのか判断できなかった。 二国間協定等の枠組みの下での共同研究数や招待講演数、一般向け講演・ワークショップ等の数が第5期の方が前期より少なく、「推進」した効果が現れているとは思えなかった。	29
	【年度評価】P55：グローバル循環プロトコルに関しては、さまざまな関係者が関与していることから、具体的にどの部分で特筆すべき貢献があったかを明記されるとよい。	30
	【年度評価】P58:共同研究契約件数、機関数でみると増加傾向は明らか。増加の理由は記載した方がよい。	31

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
	【期間】共同研究機関や国際共著論文の数が顕著に増えていることは高く評価できる一方で、二国間協定および国際協定の件数がともに減少している点は、気がかりである。	32
2.環境情報の収集、整理及び提供等に関する業務	【年度】情報収集と発信は着実になされており、イトウの動画再生回数からも、国民向けには、動画等を使って発信することの重要性を感じた。	33
年度評価書(案) 掲載箇所：17ページ	【年度】制作した動画が、科学技術映像祭 内閣総理大臣賞を受賞したことを高く評価する。また、環境展望台やホームページ、SNS等により、高い頻度で情報更新を行い、積極的に研究成果の発信や啓蒙活動を行っており高く評価する。	34
期間評価書(案) 掲載箇所：27ページ	【年度・期間】環境研究の中核機関として、環境情報の収集・整理・発信を継続的かつ精力的に行っており高く評価する。評価として、年度及び期間評価としてA評価を支持する。	35
	【年度・期間】研究成果や環境情報の発信にも様々な工夫が行われており、制作した皆様の熱い思いが伝わります。小学生も含め若い世代・幅広い分野に広めていただきたい。	36
	【期間】メタデータの数が増加し、動画への注目度も高まっており、改善の成果が如実に現れていることは評価できる。	37
3.気候変動適応に関する業務	【年度・期間】気候変動適応に関する業務のみが難易度が高く設定されている。この理由を明確にする必要があるのでは？また、初期においては、地域の気候変動適応センターを立ち上げることの難しさを理解するが、現在もその点が継続されているということだろうか？また、今後は、センターから提供された情報が、どのように地域の気候変動適応策に活かされているかを調べる必要があると思う。	38
年度評価書(案) 掲載箇所：20ページ	【年度・期間】2018年に設立した気候変動適応センターを中心に、情報の収集・整理・分析、都道府県又は市町村、地域気候変動適応センター（LCCAC）に対する技術的援助、他の国研との連携等を精力的に推進しており高く評価する。年度および期間評価としてA評価支持する。	39
期間評価書(案) 掲載箇所：33ページ	【年度】「事業者による適応の取り組み促進」を目的とした経済団体等へのアプローチ、どのような効果が得られるか期待しておりますが、現時点での目標としていることがあるのでしょうか。	40
	【期間】国際、国と自治体、省庁を超えたネットワークが構築されたことは高く評価できる。公共事業への知見の活用例が出てきたことも特筆すべきであるが、地域レベルで活用できるデータベースの構築、公共事業にNbSを適切に活用できる仕組みの構築等への今後の更なる貢献が期待される。	41

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
第4．業務運営の効率化に関する事項		
1.業務改善の取組に関する事項 年度評価書(案) 掲載箇所： 23ページ 期間評価書(案) 掲載箇所： 37ページ	【年度・期間】経費、人件費、調達の各分野での業務改善を着実に進めており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。 なお、例えば2022年度に設置した広報室や産学連携コーディネータ・外部資金室の設置などの組織改善が年度および期間評価にどのように結びついたのかについても分析を行い、評価・改善を行う活動についての報告もあるとよいのではないか。	42
	【年度・期間】働き方改革の観点から、業務の効率化（例えば会議等の開催数や形態の見直しなど）などの検討は行われているのでしょうか。	43
	研究系職員のラスパイレス指数が第4期以降、年々下がっているのは、若手や非常勤の割合が増えているということか。	44
	【年度】物価高の中、電気料金の10％以上の削減は、気候変動対策の観点からも評価できる。	45
2.業務の電子化に関する事項 年度評価書(案) 掲載箇所： 24ページ 期間評価書(案) 掲載箇所： 39ページ	【年度・期間】2022年度に設置したPMOを中心に業務改善を着実に進めており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	46
	【年度・期間】事務機能のDXを推進している。	47
	事務系職員は国との人事交流により管理職が多く出向してきていることでラスパイレス指数が高いのだとしたら、NIESには腰掛け的にしかない職員の割合が増えていることで、年々増加しているのか。だとしたら業務の電子化など新しい技術に対応した事務体制を進める上で、人事交流はプラスに働いているのか気になった。	48
	【年度】Web会議音声強化等によりオンライン会議の運用が改善され、安定的な活用が確保されていることは評価できる。	49
第5．財務内容の改善に関する事項		
年度評価書(案) 掲載箇所： 26ページ	【年度・期間】バランスの取れた収入の確保、保有財産の処分等を通じた財務内容の改善を継続的に進めており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	50
期間評価書(案) 掲載箇所： 42ページ	【期間】競争的外部資金の額が前期を上回ったことは評価できる。	51
第6．その他の業務運営に関する重要事項		
1.内部統制の推進 年度評価書(案) 掲載箇所： 28ページ 期間評価書(案) 掲載箇所： 45ページ	【年度・期間】規律ある組織運営に向けた努力を継続的に実施しており高く評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	52
	【年度・期間】競争的外部資金・受託収入も増加傾向にあり、評価すべきと考えます。	53
	【期間】研修の受講率100％等により、コンプライアンスの確保が適切に諮られている。	54

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
2.人事の最適化 年度評価書(案) 掲載箇所： 29ページ	【年度・期間】複数の人事施策を用いて、優れた人材の確保に引き続き努力しており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	55
	女性活躍推進法に基づく行動計画のポイント（新規）は何か。	56
3.情報セキュリティ対策等の推進 年度評価書(案) 掲載箇所： 30ページ	【年度・期間】情報セキュリティに関する所員教育、システムの改善などを継続的かつ精力的に実施しており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	57
	生成AIを業務に導入する際の職員への研修（リスク対策も含め）などは行われているのでしょうか。	58
	【期間】新たな認証基盤の導入等、適切にセキュリティ強化が図られている。	59
4.施設・設備の整備及び管理運用 年度評価書(案) 掲載箇所： 31ページ	【年度・期間】適正かつ合理的な施設・設備運営の努力を継続しており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	60
	【期間】適切な施設・設備更新は研究成果をあげるための基盤であり、計画通りに進んでいることが認められる。	61
5.安全衛生管理の充実 年度評価書(案) 掲載箇所： 32ページ	【年度・期間】所員の健康・安全に関する業務を適切に遂行しており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	62
	【年度・期間】高ストレス者に対する面接指導等が適切に行われていると認められる。	63
6.業務における環境配慮等 年度評価書(案) 掲載箇所： 33ページ	【年度・期間】環境に配慮した業務運営に向けた努力を継続的に行っており評価できる。年度および期間評価としてB評価を支持する。	64
	【年度】フードバンクへの食品提供等、新たな取り組みがなされたことは評価できる。	65
	【期間】新棟ZEB化の議論が実施されたことは評価できるが、今後、これを着実に実現するための手当が期待される。	66